

平成26年度 福祉用具実用化開発費助成金 新規テーマ概要(6件)

No.	テーマ名	会社名	助成事業の概要
1	マルチモータ駆動輪搭載・就労支援型電動車椅子の開発 (平成26～27年度)	有限会社さいとう工房 (東京都墨田区)	自社開発した最小旋回半径(42cm)の機能等を有した電動車椅子技術と小型バッテリー、マルチモータ方式採用の薄型駆動輪(インホイールモータ)を組合せた「就労支援型電動車椅子」を開発し、障害者雇用を促進させ、高齢者・身障者の社会参加によるQOL向上を目指す。
2	排泄ケアの負担軽減用衣類とパッド等の開発 (平成26～28年度)	株式会社プリムラモDESTA (福岡県北九州市)	要介護度3～5の方の介護支援を目的とした衣類(下着とパジャマ)と、便と尿を分離収納し、分離収納した便を家庭および施設のトイレに流すことが可能な構造を持ったパッドを開発し、介護従事者の排泄ケア負担の軽減を図る。
3	腰痛予防用装具の開発 (平成26～27年度)	株式会社アルファ技研 (兵庫県神戸市)	高齢者が一人で容易に着脱でき、日常生活に支障なく動きやすく、固定を空気調整で可能なエアポケットを設け、使用者に合わせて形状を変更でき、かつずれにくい装具の開発を目指す。
4	視覚障害者向け日本銀行券券種識別装置「言う吉くん(Wallet)」の開発 (平成26～27年度)	株式会社テックアイオーサービス (神奈川県川崎市)	紙幣を授受する際に音声やバイブレーションなどで券種を伝える視覚障害者向けの生活補助装置として、普段使い慣れたお財布の機能をそのままに、紙幣識別を行える画像認識技術の開発と筐体設計を行う。
5	ALS患者等の高正答率Yes/No意思伝達装置の開発 (平成26年度)	エクセル オブ メカトロニクス株式会社 (東京都練馬区)	自社開発した、身体を全く動かせないALS患者が介護者の質問にYes/Noで回答する装置を、判定方法の変更、患者ごとのパラメータ調整機能、左右額の脳血量を同時に測れるプローブの開発と脳血量波形の最適区間の解析を実施し、正答率の向上を実現する。
6	人工内耳・補聴器装用者の聴覚リハビリシステムの開発 (平成26～27年度)	キャロルシステム仙台株式会社 (宮城県仙台市)	人工内耳または補聴器を利用する聴覚障害者向けの聴覚トレーニングとして、在宅にてタブレットPCを用いて、視覚・聴覚複合刺激を通じた聴覚リハビリテーションを効率的に行えるシステムを開発する。